いるものの、日本の高校生の逸脱、学習コミットメント、学校適応的な意識の水準は、いずれも全体的に低いものであった。そしてこうした日本の高校生像は、逸脱行動も多いが学習コミットメントのレベルも高く、学校を積極的にコミットする学習の場ととらえているアメリカの高校生像とは大きくかけ離れたものだった。また日本の高校生の学校からの離脱の要因としてしばしば指摘される、生徒理解にもとづくガイダンス方式の生徒指導や開放的な大学入学者選考が、アメリカでは高校へのコミットメントの低下には結びついていないことが示された。

表6．日米の高校生の学校適応的な意識（%）

		とても あてはまる	やや あてはまる	あまり あてはまらない	まったく あてはまらない	無回答	検定
日本	普通科・上位	4.7	34.0	42.3	17.1	1.9	
	普通科・下位	2.8	28.1	43.0	24.4	1.6	χ^2=101.721,
	専門学科	2.8	25.9	42.6	26.1	2.6	df=8, p<.001
	合計	3.5	29.9	42.7	22.0	1.9	
アメリカ	進学課程	18.7	69.2	9.6	1.1	1.5	
	一般課程	11.4	71.5	14.1	1.8	1.2	χ^2=39,226.218
	職業課程	11.8	72.4	10.8	3.1	1.9	df=8, p<.001
	合計	14.8	70.6	11.6	1.6	1.4	
日本	普通科・上位	8.4	32.6	38.8	17.6	2.7	
	普通科・下位	7.3	27.1	39.5	23.7	2.4	χ^2=50.162,
	専門学科	6.9	28.4	40.5	21.0	3.2	df=8, p<.001
	合計	7.6	29.4	39.4	20.9	2.6	
アメリカ	進学課程	20.7	63.9	13.0	1.1	1.3	
	一般課程	14.3	64.3	17.8	2.4	1.2	χ^2=34,673.532
	職業課程	13.4	65.0	15.9	3.1	2.6	df=8, p<.001
	合計	17.1	64.2	15.4	1.9	1.4	

2.4 日米の高校生の価値観

2.4.1 メリトクラティックな価値観

日米の高校生の間では、どのような事柄が重視されているのだろうか。先行研究より、日本の高校生の間でメリトクラティックな価値観が減退しているが、それに変わる新たな価値観が台頭しているわけではなく、判断保留の状態にあることが示されたが、この若年パネル・コーホートでは、どのような価値観のパターンが確認されるのだろうか。また高校へのコミットメントの水準が高いアメリカの高校生は、どのような価値観を形成しているのだろうか。

表7．日米の高校生の価値観（%・平均値）

	価値観		とても重要	少し重要	重要ではない	無回答	平均値[1]	標準偏差
メリトクラティック	仕事で成功すること	日	53.3	39.8	4.1	2.8	1.51	0.58
		米	88.2	10.3	0.9	0.6	1.87	0.36
	仕事で人に尊敬されること	日	45.5	41.1	10.4	2.9	1.36	0.67
		米	66.2	27.4	5.8	0.7	1.61	0.60
	お金持ちになること	日	34.1	49.3	13.9	2.8	1.21	0.67
		米	36.3	53.2	10.0	0.6	1.26	0.63
	よい教育を受けること	日	31.5	49.3	16.3	2.9	1.16	0.68
		米	84.2	13.3	1.8	0.7	1.83	0.42
	合計						日：1.31,	米：1.64
自己充足	親友をもつこと	日	85.0	10.9	1.4	2.8	1.86	0.39
		米	79.7	17.5	2.2	0.6	1.78	0.46
	好きなことを楽しむ時間をもつこと	日	78.4	17.8	0.8	2.8	1.80	0.42
		米	63.5	33.3	2.3	0.9	1.62	0.53
	親元を離れて自立すること	日	48.7	42.5	5.9	2.9	1.44	0.61
		米	12.8	38.4	48.0	0.8	0.65	0.70
	合計						日：1.70,	米：1.35
家庭重視	結婚して幸せな家庭生活をおくること	日	66.4	22.3	8.5	2.8	1.60	0.64
		米	79.5	16.2	3.7	0.6	1.76	0.51
	子どもをもつこと	日	50.0	33.3	13.8	2.8	1.37	0.72
		米	44.2	38.7	16.5	0.7	1.28	0.73
	合計						日：1.48,	米：1.52
社会貢献・改善	人の役に立つこと	日	68.5	25.2	3.5	2.8	1.67	0.54
		米	32.7	60.5	6.1	0.6	1.27	0.57
	子供には自分よりも恵まれた条件を与えること	日	40.6	44.5	12.0	2.9	1.29	0.67
		米	75.2	20.0	4.2	0.6	1.72	0.54
	世のなかのさまざまな不平等をなくすために社会活動をすること	日	20.1	54.9	22.1	2.9	0.98	0.66
		米	20.1	53.7	25.4	0.8	0.95	0.68
	親や親せきの近くで暮らすこと	日	7.6	43.4	46.0	3.0	0.60	0.63
		米	15.8	55.9	27.6	0.7	0.88	0.65
	合計						日：1.14,	米：1.20

注1）平均値は「とても重要」＝2、「少し重要」＝1、「重要ではない」＝0として、算出した値である。

表７は日米の高校生の価値観を、メリトクラティックな価値観、自己充足を重視する価値観、家庭を重視する価値観、社会貢献や生活改善を重視する価値観に分類して整理したものである。この４つの分類は、価値観に関わる 13 項目より因子分析の手法を用いて抽出された、高校生の価値観を構成する因子に対応しており、各グループ内の価値項目は互いに強い相関関係をもっている。

まず「仕事で成功すること」「仕事で人に尊敬されること」「お金持ちになること」「よい教育をうけること」の４つの価値項目に代表される「メリトクラティックな価値観」に注目してみよう。日米を比較すると、仕事で成功（「とても重要」、日本：53.3%、アメリカ：88.2%、以下、同様）したり、尊敬（45.5%、66.2%））されたりすること、そのためによい教育をうけること（31.5%、84.2%）をとくに重視している高校生は、圧倒的にアメリカに多い。メリトクラティックな価値観は、アメリカの高校生の間では高い水準で維持されている。ただしお金持ちになること（34.1%、36.3%））をとても重要と考えている高校生は、日米ともに３割程度にとどまっている。

「平均値」は、それぞれの価値項目について、「とても重要」「少し重要」「重要ではない」の回答結果に順に２～０点のスコアを与えて算出した値である。４つのメリトクラティック価値項目の平均値を比較すると、日本の高校生は仕事で成功（1.51）して、尊敬（1.36）されることを重視しているが、そのためによい教育を受けること（1.16）はとくに重視していない。このことは、アメリカの高校生が、仕事で成功（1.87）して尊敬（1.61）されることに加えて、よい教育を受けること（1.83）を非常に重視していることと対照的である。教育は、日本の高校生にとって、アメリカの高校生ほど重要ではないのである。

「合計」はそれぞれの価値項目の平均値をさらに平均して求めた総合スコアである。メリトクラティックな価値観の総合スコアは、日本が 1.34、アメリカが 1.64 であることからも、日本の高校生のメリトクラティックな価値観が相対的に希薄であることがわかる。

日米の高校生の間では、メリトクラティックな価値観はだれによって重視されているのだろうか。表８は、メリトクラティックな価値観のうち、とくに「仕事で成功すること」（職業観）と「よい教育をうけること」（教育観）について、学科・課程別、男女別の平均値を整理したものである。まず日本の高校生の職業観に注目すると、男女間にも学科間にも平均値に有意な差異がみとめられる。すなわち男子（1.56）は女子（1.45）よりも仕事で成功することを重視しており、とりわけ男子のなかでは専門学科（1.63）、女子のなかでは普通科・上位（1.47）の生徒の職業意識が高い。今日の日本社会において男女共同参画が充分な水準に達していないことは、女性のＭ字型就労曲線などが示すとおりであるが、日本の女子高校生の仕事での成功を重視しない傾向は、こうした雇用・労働環境を反映していると考えられる。そのなかで専門技術・管理職として労働市場に参画する可能性を秘めている普通科・上位の女子だけが、比較的高い水準で職業アスピレーションを維持している。その一方で、専門学科の男子が仕事での成功をとくに重視しているのは、就職を目

前に控えた彼らにとって、仕事で成功することがやはりより切実な問題だからであろう。

表８．学科別・男女別のメリトクラティックな価値観の重要性（平均値）

	仕事で成功すること						よい教育を受けること					
	日本			アメリカ			日本			アメリカ		
	学科	平均値	標準偏差	課程	平均値	標準偏差	学科	平均値	標準偏差	課程	平均値	標準偏差
男子	普・上	1.53	0.58	進学	1.89	0.34	普・上	1.21	0.70	進学	1.86	0.37
	普・下	1.56	0.58	一般	1.86	0.38	普・下	1.11	0.71	一般	1.72	0.52
	専門	1.63	0.53	職業	1.89	0.34	専門	1.15	0.70	職業	1.76	0.48
	合計	1.56	0.57	合計	1.88	0.36	合計	1.16	0.70	合計	1.79	0.46
女子	普・上	1.47	0.57	進学	1.89	0.34	普・上	1.25	0.65	進学	1.91	0.32
	普・下	1.44	0.59	一般	1.86	0.37	普・下	1.10	0.66	一般	1.82	0.43
	専門	1.43	0.57	職業	1.86	0.35	専門	1.08	0.68	職業	1.89	0.33
	合計	1.45	0.58	合計	1.88	0.36	合計	1.15	0.66	合計	1.87	0.37
合計	普・上	1.50	0.58	進学	1.89	0.34	普・上	1.23	0.68	進学	1.89	0.35
	普・下	1.49	0.59	一般	1.86	0.37	普・下	1.11	0.68	一般	1.77	0.48
	専門	1.55	0.55	職業	1.88	0.34	専門	1.12	0.69	職業	1.83	0.41
	合計	1.51	0.58	合計	1.88	0.36	合計	1.16	0.68	合計	1.83	0.42
男女差検定	F=70.439, df=7,335, p<0.001			F=15.698, df=2,479,292, p<0.001			F=0.149, df=7,341, p=0.699			F=26,277.248, df=2,477,043, p<0.001		
学科差検定	F=5.173, df=7,350, p=0.006			F=2,288.172, df=2,479,293, p<0.001			F=25.595, df=7,326, p<0.001			F=22,555.365 df=2,477,044, p<0.001		

日本の高校生にみられるこうした職業観における男女差と学科差は、アメリカの高校生の間にはみられない(4)。アメリカでは、男子も女子も、就職者も進学者も同様に高い水準で、仕事での成功を重視しているのである。

つぎに日本の高校生の教育観に注目すると、平均値における有意な差異は男女間にはみられないが、学科間にはみられる。すなわち教育を重視しているのは、男女に関わらず、普通科・上位（1.23）の高校生で、普通科・下位（1.11）や専門学科（1.12）の高校生は相対的に重視していない。仕事での成功が女子には重視されず、学校ランクとも直接的な対応をもたなかったのに対して、よい教育を受けることは、男女を問わず、学校ランクが上位の高校生によって重視されているのである。教育的な尺度で測られたメリットにもとづくメリトクラシーが教育の枠組みのなかで成立するのは当然のこととともいえるが、この教育に関わるメリトクラシーと、職業に関わるメリトクラシーとが異なる生徒層によって重視されているために、教育と職業が構造的に連動していない点に注目する必要がある。

男女や課程を問わず、仕事で成功することが重視されているアメリカでは、教育は男子（1.79）よりも女子（1.87）によって、一般課程（1.77）よりも進学課程（1.89）と職業課程（1.83）の高校生によって、より重視されている。すなわち教育は、仕事と同様に、進学者によっても、就職者によっても重視されているのである。とりわけ女子にとって、よい教育を受けることは仕事で成功するうえでも極めて重要な条件であると考えられる。他方、一般課程の高校生の間では、よい教育を受けることの重要性はやや低い。一般課程の高校生は、逸脱傾向も強く、その学校適応水準が総体的に低いことは既に述べたとおりである。

2.4.2 日本の高校生が重視する価値

このように日本の高校生は、メリトクラティック価値観をアメリカの高校生ほど重視しておらず、仕事での成功を重視する生徒層と、よい教育を受けることを重視する生徒層が一致していない。それでは、日本の高校生にとって何が重要なのだろうか。表7に戻って検討してみよう。

「メリトクラティック」（日本：1.31、アメリカ：1.64、以下同順）、「自己充足」（1.70、1.35）、「家庭重視」（1.48、1.52）、「社会貢献・生活改善」（1.14、1.20）の各グループの価値項目の平均値の合計（平均値）を比較すると、日本の高校生は「自己充足」を重視する価値観を、アメリカの高校生がメリトクラティックな価値観を重視する水準以上に、何よりも重視していることがわかる。自己充足の価値観とは、「親友をもつこと」（1.86）であり、「好きなことを楽しむ時間をもつこと」（1.80）であり、「親元を離れて自立すること」（1.44）である。つまり親の監視から開放されて、気の合う親友と、好きなことを楽しむことが、日本に高校生にとっては何よりも大切なことなのである。

日本の高校生によって自己充足のつぎに重視されているのが、「結婚して幸せな家庭生活をおくること」（1.60）と「子どもをもつこと」（1.37）に代表される「家庭重視」の価値観である。「メリトクラティック」な価値観と、「社会貢献・生活改善」を重視する価値観は、相対的に低い水準でしか重視されていない。すなわち「人の役に立つこと」（1.67）を重視している高校生が多いことは特筆に値するが、それを除けば「世のなかの不平等をなくすために社会活動をすること」（0.98）を重要と考える高校生は少なく、「子どもに自分よりも恵まれた条件を与え」（1.29）たり、「親や親せきの近くで暮ら」（0.60）して家族の生活改善に貢献することを優先する高校生も稀である。

もっとも社会貢献・生活改善は、アメリカの高校生の間でもあまり重視されていない。最も重視されているのがメリトクラティックな価値観で、家庭を重視する価値観、自己充足を重視する価値観についで、社会貢献・生活改善を重視する価値観が重視されている。仕事での成功と幸せな家庭生活は、アメリカで伝統的に重視されてきた価値であり、今日も高校生の間で連続性をもって維持されている。また若者が既成社会のさまざまな矛盾に

対する異議申し立てを行った1960年代の「改革の時代」が1970年代の多様性と許容性の時代に取って代わられ、人々の関心が社会改善から自己充足にむけられてきたことはしばしば指摘されてきたが、NELSコーホートの高校生も例外ではない。

それでは日本の高校生の間で最も重視されている、自己充足の価値観を代表する「親友をもつこと」と「好きなことを楽しむ時間をもつこと」、および社会貢献・生活改善の価値観を構成する「人の役に立つ」という価値項目が、だれによって重視されているのかを検討してみよう。表9はこれら3つの価値項目の男女別、学科・課程別の平均値を整理したものである。まず日本の高校生の3つ価値項目の平均値には、男女間に有意な差異があるが、学科間には差異がないことに注目する必要がある。日本の高校生は、在籍学科にかかわらず、親友をもったり、好きなことを楽しむ時間をもったり、人の役に立つことを重視しているが、とりわけ女子にその傾向が強いのである。職業に関わるメリトクラシーを重視しない女子を中心に、学校ランクに関わらず、この自己充足を重視する価値観と人の役に立つことを重視する価値観が、他のどの価値項目よりも強く打ち出されている。

表9．男女別・学科別の自己充足・「人の役に立つこと」の重要性（平均値）

		親友をもつこと				好きなことを楽しむ時間をもつこと				人の役に立つこと			
		日本		アメリカ		日本		アメリカ		日本		アメリカ	
	学科/課程	平均値	標偏	平均値	標偏	平均値	標偏	平均値	標偏	平均値	標偏	平均値	標偏
男子	普・上/進学	1.82	0.44	1.84	0.40	1.76	0.46	1.67	0.48	1.59	0.61	1.21	0.57
	普・下/一般	1.81	0.45	1.79	0.45	1.74	0.47	1.66	0.53	1.60	0.60	1.16	0.57
	専門/職業	1.83	0.41	1.65	0.55	1.79	0.42	1.56	0.54	1.65	0.54	1.19	0.61
	合計	1.82	0.44	1.79	0.44	1.76	0.45	1.65	0.51	1.61	0.59	1.19	0.58
女子	普・上/進学	1.90	0.31	1.81	0.46	1.83	0.39	1.57	0.56	1.71	0.50	1.38	0.54
	普・下/一般	1.89	0.34	1.76	0.48	1.83	0.39	1.61	0.54	1.73	0.49	1.33	0.55
	専門/職業	1.92	0.30	1.68	0.52	1.84	0.38	1.53	0.57	1.73	0.46	1.33	0.52
	合計	1.90	0.33	1.77	0.48	1.83	0.39	1.58	0.55	1.72	0.49	1.35	0.54
合計	普・上/進学	1.86	0.38	1.82	0.43	1.80	0.43	1.62	0.52	1.66	0.56	1.30	0.56
	普・下/一般	1.85	0.40	1.77	0.47	1.79	0.42	1.64	0.53	1.67	0.54	1.24	0.57
	専門/職業	1.87	0.37	1.66	0.54	1.81	0.41	1.55	0.56	1.68	0.51	1.26	0.57
	合計	1.86	0.39	1.78	0.46	1.80	0.42	1.62	0.53	1.67	0.54	1.27	0.57
男女差検定		F=78.286, df=7,337, p<0.001		F=1,594.416 df=2,478,661, p<0.001		F=55.878 df=7,334, p<0.001		F=10,573.634, df=2,471,122, p<0.001		F=75.901, df=7,335, p<0.001		F=52,502.729 df=2,477,946, p<0.001	
学科差検定		F=0.905 df=7,352, p=0.405		F=14,567.645 df=2,478,661, p<0.001		F=0.417, df=7,349, p=0.659		F=3,524.059 df=2,471,122, p<0.001		F=1.510 df=7,350, p=0.221		F=2,665.989 df=2,477,946, p<0.001	

これら３つの項目について、アメリカの高校生はまったく異なる傾向で回答している。すなわち学校ランクが高いほど、女子よりも男子ほど、親友をもったり、好きなことを楽しむ時間をもったりすることを重視する傾向がある。人に役立つことは、女子によって重視される傾向が強い。またとくに、学校適応水準の低い一般課程の高校生の間では、好きなことを楽しむ時間をもつことを重視し、人の役に立つことを重視しない傾向がみられる。

以上にみたとおり、日本の高校生の間では、よい教育をうけ、仕事で成功するというメリトクラティックな価値観はあまり重視されておらず、むしろ親友と楽しい時間を過ごす自己充足的な価値観と、人の役に立つ社会貢献型の価値観が突出して重視されていた。先行研究ではメリトクラティックな価値観が希薄化するなかで、高校生は「判断保留」しているとみなされているが、若年パネル・コーホートの高校生は、メリトクラシーに対抗するともいえる自己充足と社会貢献の価値観を、他の価値観よりもはるかに高い比率で組織的に選択していた。

３．まとめと考察

本稿の目的は、日米比較のアプローチを用いて、現代の高校生の生活と意識の特徴を明らかにし、その意味を考察することであった。ここでは日米比較によって明らかになった３つの結果を整理し、それぞれについて考察を加えて本稿をしめくくりたい。

第１に、日米の高校はともにトラッキング・システムを構成し、高校生の進路を水路づけるとともに、学校適応のあり方を規定していた。ところが学校適応の水準は、日米で大きく異なり、逸脱も多いが、学習コミットメントと学校適応な意識も強いアメリカの高校生とは対照的に、日本の高校生は逸脱は少ないものの、学習コミットメントも学校適応的な意識も弱い状況が確認できた。日本の高校生にとって高校は限られたインパクトしかもたないのである。

高校生の生活が多様化し、分節化されるなかで、高校が高校生にとって意味のある空間であり続けるためには、豊かな人間形成、学力形成、進路形成のエージェントとして、その機能を高める以外に方法はない。アメリカの事例は、日本の高校生と同様に生活が多様化しているアメリカの高校生の間でも、学習コミットメントが高いレベルで維持可能であることを示唆している。すなわち日本でも、たとえば大学入学者選考、授業運営、教科指導、教師－生徒関係のあり方を再考することによって、高校生の学習コミットメントを高める余地があることを示唆しているのである。

第２に、アメリカの高校生に比べると、日本の高校生のメリトクラティックな価値観は極めて希薄である。さらに職業に関わるメリトクラシーは男子を中心に、教育に関わるメリトクラシーは学校ランクの上位者を中心に、必ずしも一致しない生徒層によって重視されている。高校生にとって高校が意味ある空間であるためには、高校の教育と将来の仕事とが有機的に結びついている必要がある。アメリカでは、学校ランクに関わらず８割以上

の生徒が仕事も教育も重視しているのは、中等後教育レベルの豊かな職業訓練機会、中等教育レベルのメンター制度の充実などによって、教育と職業との間にこの有機的なつながりが成立しているためという仮説をたてることができる。また一般課程の高校生の相対的な学校不適応の傾向は、進路が多様なために焦点を絞った進路指導が困難な制度的制約に起因すると考えることもできる。日本でも、インターンシップを初めとする児童・生徒の職業体験プログラムが注目されているが、学校カリキュラムにおける位置づけや方法論の研究など、より組織的な取り組みが求められる。

第３に、日本の高校生にとってメリトクラティックな価値観よりも重視されていたのは、親友をもち、好きなことを楽しむ時間をもつ自己充足的な価値観と、人の役に立つことを重視する社会貢献型の価値観であった。いずれも学校ランクによる差異はなく、とくに女子によって強く重視されていた。たしかに、この自己と周囲の人びとの生活の質を重視する「共生型」の価値観は、現在の欲求よりも将来の成功を重視する未来志向型のメリトクラティックな価値観とはまったく異質のものである。その意味で、共生型の価値観はメリトクラシーに対抗する価値観であり、その後退をまねく危険性をはらんでいる。しかしそれはまた、平和と共存が優先課題として位置づけられているポスト近代社会にふさわしい規範でもある。人類社会の生産性を維持・発展させながら、多様な人びとが共存できる社会を実現するためには、メリトクラシーを擁護しながら、共存型の価値観と両立させる方法を模索する必要がある。現代の高校生が、こうした時代の変化を先取りしているとみなし、彼らが張り合いをもってコミットできる高校の再構築にむけて条件整備をすすめることが私たちに今、求められているのではないだろうか。

［注］

(1) サンプルは２段階層化抽出法(第１層：1,057 校の中等学校、第２層：24,599 人の第８学年生徒：基本年)を用いて抽出され、全米の 3,148,608 人の 1992 年第 12 学年生コーホートを代表するように重みづけされている(NCES, 2002b, p.12, p.77)。

(2) 全サンプル(n=3,148,608)のうち、6.6%は在籍課程が不明。障害をもつ児童・生徒のための特殊教育（1.2%）と主として普通教育に適応しない児童・生徒のためのオルターナティブ教育（2.3%）プログラムの在籍者はサンプルから除外した。その結果、進学・一般・職業課程の分類でとらえられるのは、全体の 89.9%（n=2,831,270）である。

(3) 学習時間は、回答の値を各時間区分の中央値に再割り当てした後に、日本は家と塾・予備校における学習時間、アメリカは学校内と学校外の学習時間の和として算出した。値の再割り当ては次の通りである。1（まったく勉強しなかった・行かなかった）→0、2（１時間未満）→1、3（１～3 時間）→2、4（４～６時間）→5、5（７～９時間）→8、6（10～12 時間）→11、7（13～15 時間）→14、8（16～20 時間）→18、9（21 時間以上）→21。さらに表５では、０～42 時間の連続変量として分布する学習時間を、７つの時間区分に再び整理している。

(4) アメリカの高校生の職業観の平均値の差の検定によると、男女間、課程間にそれぞれ有意な差がある。しかし実際の平均値を比較すると、その差は僅かである。NELS では重みづけ後のサンプル数（自由度）が非常に大きいため、僅かな差異が検定結果に反映されていると考えられる。ここでは平均値の実質的な差異を優先して解釈する。

［参考文献］

荒巻草平「学校生活と進路選択－高校生活の変化と大学・短大進学」尾嶋史章編『現代高校生の計量社会学－進路・生活・世代』ミネルヴァ書房、2001 年、63～80 頁。

江原武一『現代アメリカの大学－ポスト大衆化をめざして』玉川大学出版部、1994 年。

大多和直樹「生徒文化―学校適応」樋田大二郎・耳塚寛明・岩木秀夫・苅谷剛彦編『高校生文化と進路形成の変容』学事出版、2000 年、185～223 頁。

尾嶋史章編『現代高校生の計量社会学－進路・生活・世代』ミネルヴァ書房、2001 年。

苅谷剛彦「学習時間の変化」樋田大二郎・耳塚寛明・岩木秀夫・苅谷剛彦編『高校生文化と進路形勢成の変容』学事出版、2000 年、149～164 頁。

轟亮「職業観と学校生活観－若者の（まじめ）は崩壊したか」尾嶋史章編『現代高校生の計量社会学－進路・生活・世代』ミネルヴァ書房、2001 年、129～158 頁。

樋田大二郎・耳塚寛明・岩木秀夫・苅谷剛彦編『高校生文化と進路形成の変容』学事出版、2000 年。

早田幸政（訳）『アメリカ北中部地区基準協会の大学・カレッジ評価ハンドブック』（大学基準協会企画）紀伊国屋書店、1995 年。

深堀聰子「エンロールメント・マネージメントとアクセスの平等性」江原武一・杉本均編『大学の管理運営改革－日本の行方と諸外国の動向』東信堂、2005 年、138～164 頁。

堀健志「学業へのコミットメント－空洞化する業績主義社会についての一考察」樋田大二郎・耳塚寛明・岩木秀夫・苅谷剛彦編『高校生文化と進路形成の変容』学事出版、2000 年、165～183 頁。

耳塚寛明「進路選択の構造と変容」樋田大二郎・耳塚寛明・岩木秀夫・苅谷剛彦編『高校生文化と進路形成の変容』学事出版、2000 年、65～82 頁。

National Center for Education Statistics (NCES). *National Education Longitudinal Study: 1988-2000 Data Files and Electronic Codebook System*. Washington D.C.: U.S. Department of Education, 2002a

National Center for Education Statistics (NCES). *National Education Longitudinal Study of 1988. Base-Year to Fourth Follow-up Data File User's Manual*. Washington D.C.: U.S. Department of Education, 2002b.

日米の高校生の生活と意識（付表）

付表１．日米の高校生の放課後や週末の活動（%）

	日本					アメリカ				
	まったくないまれに	週1度より少ない	週1~2度	週3度~毎日	無回答	まったくないまれに	週1度より少ない	週1~2度	週3度~毎日	無回答
問15：イ．友だちと話をしたり、一緒に何かした（Talking or doing things with your friends.）										
男	8.0	10.7	23.7	55.1	2.6	4.7	5.7	28.2	53.2	8.1
女	5.5	10.6	21.5	61.3	1.1	3.3	6.9	26.1	56.6	7.1
合計	6.7	10.6	22.6	58.2	1.8	3.9	6.3	27.1	55.0	7.6
問15：ロ．親と話をしたり、一緒に何かした（Talking or doing things with your mother or father.）										
男	12.8	17.5	25.1	41.9	2.8	13.2	22.0	32.2	23.9	8.6
女	6.9	11.2	20.5	60.4	1.1	9.4	16.9	32.0	34.5	7.2
合計	9.7	14.3	22.7	51.4	1.9	11.2	19.4	32.1	29.4	7.9
問15：ハ．親以外の大人と話をしたり、一緒に何かした（Talking or doing things with other adults.）										
男	33.6	24.5	22.8	16.2	2.9	22.9	27.9	28.8	12.0	8.4
女	28.7	23.4	25.8	21.0	1.1	19.5	26.3	30.6	15.8	7.9
合計	31.1	23.9	24.3	18.7	2.0	21.2	27.1	29.7	14.0	8.1
問15：A．パソコン（高校の課題・ゲームを除く）をした（Using personal computers, not including school related work or video/computer games.）										
男	44.3	16.3	18.2	18.0	3.2	50.3	16.7	17.9	8.3	6.9
女	45.9	19.9	17.6	15.3	1.3	58.7	17.0	13.4	5.1	5.7
合計	45.1	18.2	17.9	16.6	2.2	54.7	16.8	15.6	6.6	6.3
問15：B．趣味（音楽・工芸など）に取り組んだ（Working on hobbies, arts, or crafts on your own.）										
男	25.2	16.1	21.9	33.4	3.3	31.0	20.6	25.9	14.8	7.7
女	23.4	19.6	24.4	31.2	1.4	32.3	27.3	25.9	8.4	6.2
合計	24.3	17.9	23.2	32.3	2.3	31.7	24.1	25.9	11.5	6.9
問15：C．ボランティア・地域活動に参加した（Doing volunteer or community service.）										
男	84.7	7.7	2.5	1.8	3.3	69.0	14.2	7.1	1.6	8.1
女	85.3	9.6	2.6	1.0	1.4	63.2	18.0	9.9	1.8	7.0
合計	85.0	8.7	2.6	1.4	2.3	66.0	16.2	8.6	1.7	7.6
問15：E．学校外のスポーツ活動に参加した（Participating in sports, not sponsored by your school）										
男	75.0	10.1	7.2	4.3	3.3	79.7	4.9	4.6	3.6	7.2
女	88.9	4.7	2.8	2.1	1.4	86.9	2.6	2.7	1.8	6.1
合計	82.1	7.4	5.0	3.2	2.4	83.4	3.7	3.6	2.6	6.6
問15：F．習い事（音楽・芸術・語学・踊りなど）をした（Taking classes: music, art, language, dance, not sponsored by your school.）										
男	88.1	3.4	3.1	2.1	3.3	81.5	3.9	4.8	2.4	7.4
女	79.7	4.3	10.7	3.9	1.3	77.4	4.5	9.1	2.9	6.0
合計	83.8	3.9	7.0	3.0	2.3	79.4	4.2	7.0	2.7	6.6

1）問15イ～ハ、A～C．E～F．：高校３年生の４～７月頃の放課後や週末に行っていた活動の一週間ごとの頻度。(n=7,544)

2）F2S33a～b. e. g～l.：How often do you spend time on the following activities not sponsored by your school? (n=10,814)

付表２．日米の高校生の逸脱行動（%）

			0回	1～2回	3～6回	7～9回	10～15回	16回～	無回答	非該当
学校に遅刻した	日本	男	52.6	23.2	10.4	4.2	2.4	5.6	1.6	—
		女	56.7	22.1	10.4	3.8	2.5	3.6	1.0	—
		合計	54.7	22.6	10.4	4.0	2.5	4.6	1.3	—
	アメリカ	男	16.2	27.9	23.5	8.1	5.1	7.1	1.5	10.6
		女	17.9	30.0	20.9	8.1	4.7	6.1	0.9	11.3
		合計	17.1	29.0	22.1	8.1	4.9	6.6	1.1	11.0
授業をさぼった	日本	男	80.2	9.4	4.6	1.7	0.7	1.6	1.7	—
		女	79.6	11.2	5.0	1.7	0.6	0.8	1.2	—
		合計	79.9	10.3	4.8	1.7	0.6	1.2	1.4	—
	アメリカ	男	40.4	23.6	12.4	4.4	3.0	4.1	1.5	10.6
		女	46.9	21.1	10.2	4.1	2.3	2.9	1.1	11.3
		合計	43.8	22.3	11.2	4.2	2.6	3.5	1.4	11.0
学校を休んだ	日本	男	51.2	29.4	11.6	2.6	1.1	2.4	1.7	—
		女	47.6	32.9	12.2	3.3	1.2	1.7	1.1	—
		合計	49.3	31.2	11.9	3.0	1.2	2.1	1.4	—
	アメリカ	男	10.3	28.8	28.7	9.7	5.4	4.4	2.1	10.6
		女	6.3	25.1	30.5	12.6	7.2	5.5	1.5	11.3
		合計	8.2	26.9	29.6	11.2	6.3	5.0	1.8	11.0
校則違反で注意	日本	男	84.3	9.1	2.5	0.6	0.4	1.4	1.7	—
		女	76.9	14.7	4.7	1.0	0.5	1.2	1.0	—
		合計	80.5	12.0	3.6	0.8	0.5	1.3	1.4	—
	アメリカ	男	48.0	26.0	7.6	2.9	1.4	2.1	1.5	10.6
		女	68.0	15.7	2.5	0.7	0.4	0.4	1.0	11.3
		合計	58.5	20.6	4.9	1.7	0.8	1.2	1.2	11.0

1）問18A～D．：高校３年生の４～７月に、次のことがあった回数。(n＝7,544)

2）F2S9a～d.：How many times did the following things happen to you in the first semester or term of the current school year? (n=12,144) (was late for school, cut or skipped classes, missed a day of school, got in trouble for not following rules.)

付表3．アルバイトの時間（%）

	日本			アメリカ		
	男	女	合計	男	女	合計
アルバイトはしなかった	78.8	74.5	76.6	15.7	14.0	14.8
1～5時間	2.9	4.1	3.5	5.2	6.1	5.7
6～10時間	3.0	4.1	3.6	7.6	8.6	8.1
11～15時間	3.1	5.5	4.3	9.1	12.0	10.6
16～20時間	3.9	5.1	4.5	12.5	14.2	13.4
21～25時間	2.7	2.7	2.7	7.9	8.5	8.2
26～30時間	1.4	1.3	1.3	5.1	3.9	4.4
31～35時間	0.6	0.6	0.6	2.5	1.8	2.1
36～40時間	0.3	0.4	0.3	3.2	2.2	2.7
41時間 ～	1.0	0.5	0.7	1.9	0.9	1.4
無回答	2.3	1.4	1.8	6.8	4.2	5.5
非該当	－	－	－	22.6	23.6	23.1

1）問17.：高校3年生の4～7月に、アルバイトをした一週間後ごとの平均時間。(n=7,544)

2）F2S88: How many hours do/did you usually work each week on your current or most current job during this school year? (n=12,144)

付表4．日米の高校生の友達の価値観（%）

	日本				アメリカ				
	とても大切	少し大切	大切にしていない	無回答	とても大切	少し大切	大切にしていない	無回答	非該当
付問22－3：友だちが大切にしていること／A．きちんと授業を受けること(attend classes regularly)									
男	14.8	53.3	30.6	1.3	38.5	36.4	7.3	7.2	10.6
女	21.0	59.8	18.1	1.1	48.7	31.8	3.8	4.4	11.3
合計	18.0	56.7	24.1	1.2	43.9	34.0	5.5	5.7	11.0
付問22－3：友だちが大切にしていること／B．よい成績をとること(get good grades)									
男	16.2	52.6	29.9	1.3	33.3	41.5	7.2	7.4	10.6
女	17.8	59.0	22.0	1.2	47.0	32.6	4.5	4.6	11.3
合計	17.0	56.0	25.8	1.2	40.4	36.8	5.8	5.9	11.0
付問22－3：友だちが大切にしていること／C．友だちと一緒にいること(get together with friends)									
男	57.9	38.3	2.5	1.3	47.6	31.8	2.5	7.5	10.6
女	75.5	22.4	1.1	1.0	51.2	30.3	2.5	4.7	11.3
合計	67.0	30.0	1.8	1.2	49.5	31.0	2.5	6.0	11.0
付問22－3：友だちが大切にしていること／H．進学すること(continue their education past high school)									
男	33.3	42.4	22.9	1.4	43.5	31.0	7.5	7.5	10.6
女	44.1	37.0	17.6	1.4	55.9	22.6	5.5	4.7	11.3
合計	38.9	39.6	20.1	1.4	50.0	26.6	6.5	5.0	11.0
付問22－3：友だちが大切にしていること／I．安定した仕事につくこと (have a regular job)									
男	35.7	50.1	12.7	1.5	22.8	41.9	17.1	7.6	10.6
女	38.8	48.8	11.1	1.4	23.4	42.3	18.4	4.7	11.3
合計	37.3	49.4	11.8	1.4	23.1	42.1	17.8	6.0	11.0

1）付問22－3A～C．H．I．：友だちが大切にしている事がら。(n=7,261)

2）F2S68a.d.h.k.l.: Among your close friends, how important is it to them that they…(n=12,144)

付表5．日米の高校生の自己概念

	日本					アメリカ					
	とてもあてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない	無回答	とてもあてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない	無回答	非該当
問24：A．成功するためには、努力より運が重要だと思う(Good luck is more important than hard work for success.)											
男	13.0	41.0	32.3	10.0	3.7	2.6	7.8	46.7	23.0	9.3	10.6
女	6.5	40.7	44.2	7.0	1.6	1.6	4.7	43.6	31.6	7.2	11.3
合計	9.7	40.8	38.4	8.5	2.6	2.1	6.2	45.1	27.5	8.2	11.0
問24：B．私には人並みの能力がある(I am able to do things as well as most other people.)											
男	14.3	46.3	29.8	5.7	3.9	35.6	40.0	3.2	0.8	9.9	10.6
女	7.4	44.9	38.6	7.3	1.7	27.9	47.6	5.0	0.8	7.4	11.3
合計	10.8	45.6	34.3	6.5	2.8	31.6	44.0	4.1	0.8	8.6	11.0
問24：C．全体として、自分に満足している(On the whole, I am satisfied with myself.)											
男	7.0	26.9	43.6	18.6	4.0	29.7	42.5	6.2	1.3	9.7	10.6
女	4.5	22.7	50.2	20.7	1.8	25.4	45.5	9.2	1.2	7.4	11.3
合計	5.7	24.7	47.0	19.7	2.9	27.4	44.1	7.8	1.3	8.5	11.0
問24：D．自分には何のとりえもないと感じる(At times, I think I am not good at all.)											
男	11.1	32.5	37.0	15.4	4.0	3.2	18.0	35.3	22.9	10.0	10.6
女	14.4	36.9	36.5	10.3	1.8	4.0	26.4	33.8	17.0	7.6	11.3
合計	12.8	34.7	36.8	12.8	2.9	3.6	22.4	34.5	19.8	8.7	11.0
問24：E．決めたことは最後までやりとげる自信がある(When I make plans, I am almost certain I can make them work.)											
男	21.6	42.2	28.6	3.8	3.7	16.7	50.7	10.8	1.4	9.8	10.6
女	23.4	43.7	27.7	3.5	1.8	13.4	52.3	14.1	1.3	7.6	11.3
合計	22.5	42.9	28.2	3.6	2.8	15.0	51.6	12.6	1.3	8.6	11.0
問24：F．人生にとってチャンスと運は重要だと思う(Chance and luck are very important for what happens in my life.)											
男	58.5	29.1	6.7	2.0	3.7	4.2	18.7	39.1	17.6	9.8	10.6
女	51.7	39.1	6.6	1.0	1.6	3.1	14.8	40.2	23.2	7.4	11.3
合計	55.0	34.3	6.6	1.5	2.7	3.6	16.7	39.7	20.5	8.5	11.0

1）問24A～F．：次の事がらがあなたにあてはまる程度。(n＝7,544)

2）F2S66c.e.h.j.k.m.：How do you feel about each of the following statements? (n=12,144)

付表6．日米の高校生の価値観（%）

	日本				アメリカ			
	とても大切	少し大切	大切にしていない	無回答	とても大切	少し大切	大切にしていない	無回答
問25：A．仕事で成功すること(Being successful in my line of work.)								
男	57.9	34.5	3.7	3.9	87.7	10.5	0.9	0.8
女	48.8	45.1	4.5	1.7	88.5	10.2	0.7	0.6
合計	53.2	39.9	4.1	2.8	88.1	10.3	0.8	0.7
問25：B．結婚して幸せな家庭生活をおくること(Finding the right person to marry and having a happy family life.)								
男	64.5	23.8	7.8	3.9	77.0	17.3	4.8	0.9
女	68.3	21.0	9.1	1.6	82.2	14.1	3.2	0.6
合計	66.4	22.3	8.5	2.7	79.7	15.6	3.9	0.7
問25：C．お金持ちになること(Having lots of money.)								
男	37.6	45.0	13.5	3.9	45.3	46.8	7.0	0.9
女	30.7	53.4	14.3	1.6	27.7	59.5	12.2	0.6
合計	34.1	49.3	13.9	2.7	36.1	53.4	9.7	0.7
問25：D．親友をもつこと(Having strong friendships.)								
男	80.7	13.3	2.0	3.9	79.2	18.0	1.9	0.9
女	89.1	8.6	0.7	1.6	80.6	17.3	1.5	0.6
合計	85.0	10.9	1.4	2.7	79.9	17.6	1.7	0.7
問25：E．人の役に立つこと(Helping other people in my community.)								
男	64.1	26.8	5.3	3.9	28.5	61.1	9.5	0.9
女	72.7	23.8	1.8	1.7	39.1	56.7	3.5	0.7
合計	68.5	25.3	3.5	2.8	34.0	58.8	6.4	0.8
問25：F．子どもをもつこと(Having children.)								
男	49.3	34.0	12.8	3.9	40.0	43.0	16.0	1.0
女	50.9	32.6	14.9	1.7	49.7	34.6	14.9	0.7
合計	50.1	33.3	13.9	2.8	45.1	38.6	15.4	0.9
問25：G．親や親せきの近くで暮らすこと(Living close to parents and relatives.)								
男	7.8	40.8	47.3	4.1	16.1	54.1	28.8	0.9
女	7.4	45.9	44.9	1.9	18.0	56.6	24.7	0.7
合計	7.6	43.4	46.1	3.0	17.1	55.4	26.6	0.8
問25：H．世のなかのさまざまな不平等を無くすために社会活動をすること(Working to correct socioeconomic inequalities.)								
男	20.9	51.9	23.1	4.1	16.4	51.0	31.5	1.1
女	19.4	57.8	21.1	1.7	22.4	56.1	20.6	0.8
合計	20.1	54.9	22.1	2.9	19.5	53.6	25.8	1.0
問25：I．子どもには自分よりも恵まれた条件を与えること(Being able to give my children better opportunities than I' ve had.)								
男	43.6	40.2	12.3	4.0	73.0	21.4	4.6	1.0
女	37.6	48.8	11.7	1.9	76.3	19.2	3.8	0.7
合計	40.5	44.6	12.0	2.9	74.8	20.2	4.2	0.8
問25：J．好きなことを楽しむ時間をもつこと(Having leisure time to enjoy my own interests.)								
男	74.1	20.8	1.1	4.0	65.6	31.7	1.7	1.0
女	82.6	15.3	0.5	1.6	61.8	35.6	1.7	0.8
合計	78.4	18.0	0.8	2.8	63.6	33.7	1.7	0.9

付表６．日米の高校生の価値観（%）（続き）

	日本				アメリカ			
	とても大切	少し大切	大切にしていない	無回答	とても大切	少し大切	大切にしていない	無回答
問25：K．親元を離れて自立すること(Getting away from my parents.)								
男	51.5	38.2	6.3	4.0	13.7	40.3	45.0	1.0
女	46.0	46.7	5.5	1.8	12.8	36.8	49.6	0.8
合計	48.7	42.5	5.9	2.9	13.2	38.5	47.4	0.9
問25：L．仕事で人に尊敬されること(Becoming an expert in my field of work.)								
男	47.8	37.5	10.7	4.0	68.6	26.2	4.2	0.9
女	43.3	44.7	10.2	1.8	63.4	29.6	6.3	0.7
合計	45.5	41.2	10.4	2.9	65.9	28.0	5.3	0.8
問25：M．よい教育をうけること(Getting a good education.)								
男	32.7	45.9	17.4	4.0	81.3	16.2	1.6	0.9
女	30.4	52.5	15.3	1.8	88.6	9.9	0.7	0.7
合計	31.5	49.3	16.3	2.9	85.1	12.9	1.1	0.8

1）問25A～M.：次の事がらがあなたにとって重要な程度。(n=7,544)

2）F2S40a～d. f～h. j～o.：How important is each of the following to you in your life? (n=10,814)

付表７．日米の高校生の高校に関する考え方（%）

	日本					アメリカ					
	とてもあてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない	無回答	とてもあてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない	無回答	非該当
問19：A．授業内容は面白い(The teaching is good.)											
男	4.2	28.0	39.4	25.7	2.7	14.6	60.3	11.1	1.8	1.6	10.6
女	2.9	31.7	45.8	18.5	1.1	12.9	63.1	10.3	1.3	1.1	11.3
合計	3.6	29.9	42.7	22.0	1.9	13.7	61.8	10.7	1.5	1.3	11.0
問19：H．先生は私が高校でがんばることを期待している(Teachers are interested in students.)											
男	8.5	29.5	37.6	21.1	3.2	15.7	56.5	13.9	1.9	1.4	10.6
女	6.8	29.4	41.2	20.7	2.0	15.5	56.9	13.4	1.8	1.0	11.3
合計	7.6	29.4	39.5	20.9	2.6	15.6	56.7	13.6	1.9	1.2	11.0

1）問19A．H.：高校に通うことに関する事がらがあてはまる程度。(n=7,544)

2）F2S7a. d.：How much do you agree with each of the following statements about your current school and teachers? (n=12,144)

付表8．日米の高校生の人生計画（%）

			すでにそうした	18～21歳	22～25歳	26～29歳	30～34歳	35歳以上	そうするつもりはない	無回答	非該当
正規の仕事を始める	日本	男	0.1	35.5	47.8	6.7	0.4	0.7	3.7	5.0	—
		女	0.0	36.7	53.0	5.2	0.4	0.3	1.6	2.7	—
		合計	0.1	36.1	50.5	5.9	0.4	0.5	2.6	3.8	—
	アメリカ	男	7.7	23.4	34.0	9.3	0.9		0.6	13.5	10.6
		女	7.1	26.9	36.8	7.5	0.8		0.4	9.2	11.3
		合計	7.4	25.2	35.5	8.3	0.9		0.5	11.3	11.0
親と違う住まい	日本	男	3.7	45.6	30.1	8.3	1.0	0.6	6.6	4.2	—
		女	3.2	43.1	35.0	10.2	1.2	0.3	4.6	2.4	—
		合計	3.5	44.3	32.6	9.2	1.1	0.4	5.6	3.3	—
	アメリカ	男	2.6	27.8	33.2	9.2	2.1		0.7	13.8	10.6
		女	3.8	35.7	32.7	6.0	1.0		0.3	9.2	11.3
		合計	3.2	31.9	32.9	7.5	1.5		0.5	11.4	11.0
結婚する	日本	男	0.7	3.6	35.0	39.4	5.9	1.0	9.9	4.5	—
		女	0.3	5.2	43.0	33.7	5.2	0.4	9.5	2.5	—
		合計	0.5	4.4	39.1	36.5	5.6	0.7	9.7	3.5	—
	アメリカ	男	0.8	5.8	34.3	25.3	5.5		4.2	13.4	10.6
		女	1.5	12.8	42.4	18.2	2.5		2.4	9.0	11.3
		合計	1.1	9.4	38.5	21.6	3.9		3.3	11.1	11.0
最初の子どもをもつ	日本	男	0.6	2.6	23.4	43.1	13.0	2.0	10.9	4.3	—
		女	0.3	3.4	33.1	40.4	8.1	0.6	11.4	2.6	—
		合計	0.5	3.0	28.3	41.7	10.5	1.3	11.2	3.5	—
	アメリカ	男	1.6	2.7	18.8	33.7	13.4		5.2	14.1	10.6
		女	3.3	5.0	25.1	34.2	7.1		4.9	9.3	11.3
		合計	2.5	3.9	22.1	34.0	10.1		5.0	11.6	11.0

1）問29A～D.：次のことをしたいと思う年齢。(n=7,544)

2）F2S72a～d.：At what age do you expect to…? (n=12,144)

付表９．日米の高校生と保護者との会話（%）

	日本				アメリカ				
	ひんぱんに	時々	まったくない	無回答	ひんぱんに	時々	まったくない	無回答	非該当
問30:家族との話し合い頻度／A.学校での出来事について(School activities or events of particular interest to you.)									
男	20.4	57.7	16.5	5.3	15.2	41.8	19.2	13.3	10.6
女	41.6	47.8	8.1	2.4	21.9	40.7	17.3	8.8	11.3
合計	31.3	52.7	12.2	3.9	18.7	41.2	18.2	10.9	11.0
問30：家族との話し合い頻度／B．授業の内容について(Things you' ve studied in class.)									
男	6.6	42.2	45.8	5.4	11.2	46.1	18.8	13.3	10.6
女	9.7	47.7	40.1	2.5	19.4	46.0	14.5	8.8	11.3
合計	8.2	45.0	42.9	3.9	15.5	46.0	16.6	11.0	11.0
問30：家族との話し合い頻度／C．成績について(Your grades.)									
男	15.0	64.5	15.0	5.4	26.3	42.4	7.2	13.4	10.6
女	15.3	67.4	14.7	2.5	36.1	38.6	4.9	9.2	11.3
合計	15.2	66.0	14.9	3.9	31.4	40.4	6.0	11.1	11.0
問30：家族との話し合い頻度／D．高卒後の進学について(Applying for colleges or other schools after high school.)									
男	29.3	43.5	21.4	5.8	27.2	35.2	13.7	13.4	10.6
女	36.6	44.6	15.7	3.0	38.2	32.5	9.1	8.9	11.3
合計	33.1	44.1	18.5	4.4	32.9	33.8	11.3	11.1	11.0
問30:家族との話し合い頻度／E.高卒後の就職について(Specific jobs you might apply for after high school.)									
男	16.8	40.7	36.8	5.6	13.4	40.3	22.2	13.5	10.6
女	19.0	40.3	37.4	3.3	18.6	40.5	20.5	9.1	11.3
合計	18.0	40.5	37.1	4.4	16.1	40.4	21.3	11.2	11.0
問30：家族との話し合い頻度／F．世のなかの出来事について(Community, national, and world events.)									
男	21.1	51.0	22.4	5.5	12.9	39.7	23.3	13.5	10.6
女	27.1	53.5	16.9	2.5	14.1	42.0	23.6	8.9	11.3
合計	24.2	52.3	19.6	4.0	13.6	40.9	23.5	11.1	11.0
問30：家族との話し合い頻度／G．悩み事について(Things that are troubling you.)									
男	5.5	34.6	54.3	5.6	11.2	43.4	21.4	13.4	10.6
女	11.6	44.1	41.8	2.5	21.9	40.9	17.0	8.9	11.3
合計	8.7	39.4	47.9	4.0	16.8	42.1	19.1	11.1	11.0

1）問30A～H.：次の事がらについて家族（保護者）と話し合う頻度。(n=7,544)

2）F2S99b～i.：In the first semester or term of this school year, how often did you discuss the following with either or both of your parents or guardians? (n=12,144)

付表10. 日米の高校生の学習時間（%）

			まったく勉強しなかった	1時間未満	1～3時間	4～6時間	7～9時間	10～12時間	13～15時間	16～20時間	21時間以上	無回答	非該当
日本	家	男	36.2	21.7	24.3	6.5	3.2	1.7	1.5	1.1	1.8	2	－
		女	24.9	23.1	32.5	7.9	3.4	2.1	2	1.3	1.7	1.1	－
		合	30.4	22.4	28.5	7.2	3.3	1.9	1.8	1.2	1.7	1.6	－
	塾・予備校	男	79.4	0.8	7.7	4.3	1.5	1	0.2	0.5	0.8	3.9	－
		女	80.1	0.9	8.2	4.6	1.7	0.9	0.3	0.3	0.4	2.7	－
		合	79.7	0.8	7.9	4.4	1.6	0.9	0.3	0.4	0.6	3.3	－
アメリカ	学校内	男	4.3	8.3	21.1	20.1	10.9	7.4	5.3	3.9	4.7	3.4	10.6
		女	3.9	8.3	21.5	20.7	10.7	6.6	5.1	4.2	5.2	2.6	11.3
		合	4.1	8.3	21.3	20.4	10.8	7	5.2	4.1	4.9	3	11
	学校外	男	6.5	8.6	21.1	17.2	11.2	8.5	5.4	3.8	4.1	2.9	10.6
		女	3.2	5.7	19	19.3	13.1	10.2	6.9	4.8	4.1	2.4	11.3
		合	4.8	7.1	20	18.3	12.2	9.4	6.2	4.3	4.1	2.7	11

1）問16A．B．：高校３年生の４～７月に、家や塾・予備校で勉強した一週間後ごとの平均時間。(n=7,544)

2）F2S25f1.F2S25f2: Overall, about how much time do you spend on homework each week, both in and out of school? (n=12,144)

（深堀聰子）

高校生のアルバイト経験と進路の関係

篠崎武久
（東京大学社会科学研究所）
高橋陽子
（学習院大学大学院経済学研究科）

本稿の目的は、高校生のアルバイト経験が、その後の進路選択、特に正社員内定にどのような影響を与えるかを検証することにある。アンケートデータを用いた計量分析からは、高校3年の4-7月時点にアルバイト経験があることは、その後の正社員就業に負の影響を与えている。ただし性別でサンプルを分割すると、女子生徒ではアルバイト経験が正社員就業に負の影響を与えるのに対し、男子生徒ではその影響が有意でなく、アルバイト経験と正社員就業の関係が確認できなくなる。

1．はじめに

本稿では高校生のアルバイト経験とその後の進路の関係について、アンケートデータを用いた計量分析から明らかにする。またアルバイト経験の多寡と所属高校、地域の就業環境との関係についても考察する。

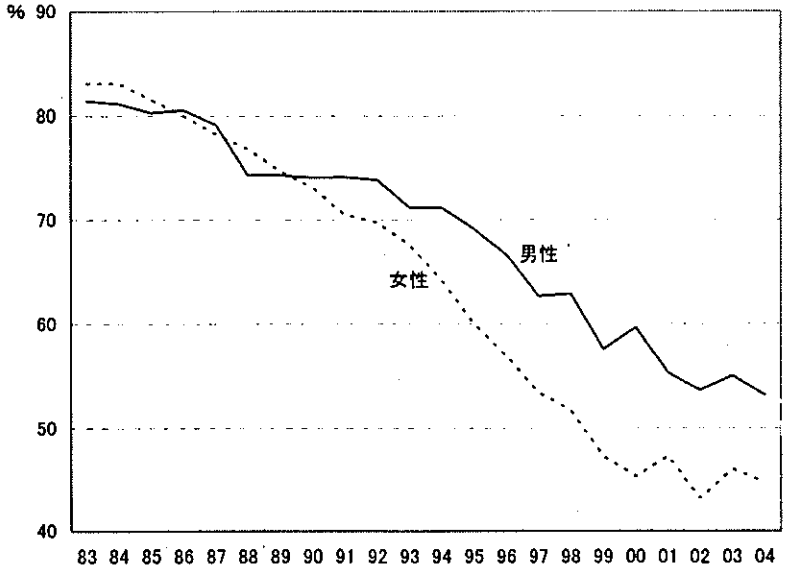
1990年代初めのバブル崩壊以降、失業率の上昇や有効求人倍率の低下など、就業環境の悪化が続いている。特に若年層の就業環境悪化が顕著で、例えば2004年の年平均失業率は、15-24歳の層で9.5%、15-19歳に限れば11.7%と、10人に1人以上が失業中の状態である。また就業できたとしても、正社員的な就業機会は激減している。図1は雇用者に占める常用雇用者の割合の推移を示している。80年代半ばまでは、15-19歳雇用者の80%以上が常用雇用者として就業していたものの、その割合は2000年代には男性で約55%、女性で約45%にまで急激に低下している。言いかえれば、15-19歳雇用者の2人に1人が、1年未満の不安定な契約で就労していることになる。

このような厳しい就業環境を改善しようと、政策的な支援の動きが活発になっている。2003年6月には、文部科学省、厚生労働省、経済産業省の3省（後に内閣府を含めた4省）が合同で「若者自立・挑戦プラン」を策定し、若年就業環境の改善と若年者の職業能力向上に向けて、教育、行政、企業の各部門が連携して支援を進めることが決定された。

このプランの中では施策の1つとして、職業体験学習の導入やインターンシップ等の推進など、教育段階での職業教育を挙げている。ただ高校生や大学生の間では、このような公的な職業体験とは別に、私的な就業体験、つまりアルバイトする者が相当数存在している。彼らがアルバイトする動機は、家計の補助や生活費、遊興・交際費の獲得など主に経済的な理由によるものと推察されるが、その他にアルバイトによる副次的な効果も存在する。首都圏の進路多様校の生徒に尋ねたアンケート調査からは、アルバイトを経験してい

る高校生の約5人に4人が「仕事現場の雰囲気を知ることができた」と回答し、3人に2人は「社会人としての必要な礼儀などの一般常識を知ることができた」と回答している（中島 2000）。また近畿地方の国公私立大学の大学生へのアンケート調査では、アルバイトをしている学生のうち6割弱が「バイトはこれからの職業生活のために必要」と回答し、その理由として「いろんなことを経験できて社会勉強になる」ことを挙げている（遠藤・牧・西山 1994）。彼らは私的な経済活動を通して、就業現場の雰囲気や一般常識など、職業生活に必要な知識の一部を経験していることになる。

図1 雇用者に占める常用雇用者の比率（15-19歳、農林業除く）



資料）『労働力調査』（総務省統計局）

それではアルバイトのような私的な職業体験は、彼らの進路決定に有利な効果をもたらすのだろうか。つまり、アルバイト経験があることは正社員的な就業機会の獲得と関係がるのだろうか。例えば Ruhm (1997) は米国のパネルデータである NLSY (National Longitudinal Survey of Youth) を用いて、高校4年時点でアルバイト経験がある学生の方が、卒業後により高い収入や職業的地位を得られると結論づけている。また、Stern et al. (1997) は NCRVE (National Center for Research in Vocational Education) が実施したパネル調査を用いて、私的なアルバイト経験よりも、高校が関与した職業教育プログラム参加者の方が、後に高賃金を獲得できるとしている。

本稿では日本で調査されたアンケートデータを用いて、過去のアルバイト経験とその後の進路選択との関係、特に卒業後に就職を希望している生徒が正社員的な職に就業できたか否かとの関係を明らかにする。またそもそもどのような地域、高校に通学する生徒がアルバイト経験を持ちやすいのかについても検証する。高校生のアルバイトについて調査した研究としては前述の中島（2000）があるが、本稿は先行研究といくつかの点で異なる特徴を有している。まず先行研究が首都圏の進路多様校に限定された調査だったのに対し、